

クラス	TU316	担当教員	齋藤 一晴
テーマ	対話と共生の歴史教育		
著書・論文 研究課題等	<p>著書には、『中国歴史教科書と東アジア歴史対話 日中韓 3 国共通教材づくりの現場から』花伝社、2008。「日中韓 3 国共通教材の可能性 一東アジア史と歴史認識をきりむすぶ」『平和と共生をめざす東アジア共通教材 歴史教科書・アジア共同体・平和的共存』明石書店、2016（共著）などがあります。論文には「歴史認識の共有とはどのようなものか 一歴史教育を国境を越えて問い直す」『歴史学研究』歴史学研究会、2016 などがあります。</p> <p>日中韓の共同歴史教材作成を通じて、自国中心的、一国史的な歴史教育を克服し、国境を越えた対話と共生の方法について模索していくことを研究課題としています。</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：歴史教育 社会科教育 歴史認識 授業方法 国際歴史教科書対話 歴史対話			
<p>目的、内容、方法、授業計画等：</p> <p>ドイツとフランス、ドイツとポーランドなど、ヨーロッパにおいて 19 世紀後半から今日まで続く国際的な取り組みがあります。国際歴史教科書対話といい、戦争や紛争を経験した関係国が、和解と共生、新しい未来をきりひらいていくために共同して歴史教科書や副読本を作成し、各国の教室で活用するというものです。</p> <p>東アジアにおいても、近年、日本と韓国、日本と中国、韓国との間で同様の取り組みが続けられ、今日、日韓共同歴史教材や日中韓共同歴史教材を活用した授業が各国で試みられています。そうした共同歴史教材を活用した授業、歴史教育は、既存のそれらとどのような違いを生み出すことが可能で、生徒たちは何を考え、学び取ることが可能になるのでしょうか。</p> <p>共同歴史教材は、隣国や周辺国との間に歴史的に生み出されてきた今日的諸課題や歴史認識の相違を、国境を越えて相互に学びあい、具体的に理解、対話するための道具です。また自国中心や一国史的な歴史理解を克服することで戦争や紛争の被害者の尊厳に向き合い、声なき声に耳を傾けることによって和解の意味や方法を学ぶための場をつくることも共同歴史教材の役割といえます。</p> <p>例えば、台湾は日本から 50 年にわたって植民地支配を受けました。今日、日本で暮らす私たちにとって、台湾の人々は「親日的」にうつろうことが少なくありません。植民地支配のことを彼らは水に流し、忘れてしまったのでしょうか。日本のどこが好きなのでしょう。</p> <p>もしかすると、私たちは台湾の歴史上の人物や地理、文化、風習、日本との関係史について何も知らないまま、「親日的」と一方的にとらえ、イメージしているだけなのかもしれません。これでは台湾の人々が植民地支配を今日どのようにとらえ、日本をみているのか知るすべがありません。こうした状況は、何も台湾についてのみあてはまるものではなく、中国や韓国など、東アジア、東南アジア、そして太平洋地域にもいえることだと思われます。</p> <p>共同歴史教材の活用は、日本のみならず、各国における教室の様子や子どもたち、授業内容から教員養成のしくみ、社会情勢に至るまでを総合的に理解したうえで可能となります。ゼミでは、上述したような問題意識にもとづきながら、子どもたちが主体的に未来をきりひらくことが可能となる歴史教育について考えてみたいと思います。</p> <p>共通テキストの輪読やテーマを決めたグループ発表、個人の興味関心に基づく個別報告を併用したいと思います。また、国内外のフィールドワークを企画したいと考えています。現代社会が抱える諸課題に真正面から向き合い、仲間とともにそれを克服しようと努めている方々から学び、現地・現場で考え、感じることを大切にしたいと思います。さらに、これまで積み重ねられた教育実践に学びながら、日々教室で子どもたちと学びあっている先生方に接する機会を作ります。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>私の問題意識を書きました。ぜひ皆さんの問題意識や素朴な疑問、将来像も聞かせてほしいと思います。「できること」・「分かること」も重要ですが、「できないこと」・「分からないこと」を自覚、問題意識として深めていくことも大切にしていきたいと考えています。また、現実に合わせてみずからの夢を小さくしていくよりも、夢に向かって現実と格闘し、課題を克服していくために行動することをめざします。他者や他国の短所を見つけることは簡単で誰にでもできますが、長所を見つけ、伸ばし、共有することは、仲間たちとの主体的な学びあいのなかからしか生まれません。ともに歴史教育や社会科教育という視点から考えていきましょう。</p>			